

西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第537号 令和4年1月・2月



『初詣』 古川 朋靖

目 次

	頁		頁
1) 2022年 年頭にあたって	玉木一弘 … 2	7) 学術講演会予定	学術部 … 11
2) 保健所だより	西多摩保健所 … 5	8) 理事会報告	広報部 … 12
3) 専門医に学ぶ	小林 薫 … 6	9) 会員通知・医師会の動き	事務局 … 17
4) 第6波に備えて	進藤幸雄 … 8	10) 表紙のことば	古川朋靖 … 22
5) 広報だより	三ツ汐 洋 … 9	11) お知らせ	事務局 … 23
6) 連載企画	下村 智 … 10	12) あとがき	馬場一徳 … 23



2022年 年頭にあたって

会長 玉木 一 弘

新年が巡り来ましたが、世界はコロナ禍を乗り越えるに至らず、2年余が経過してしまいました。この100年に一度の新興感染症パンデミックでの、西多摩医療圏の当面の課題は、1万5千余の慢性期・精神科・介護病床や、8百余の中小医療・介護・福祉関連事業所等での集団感染を最小限に止めつつ、全世代に渡る対応を、西多摩の医療提供力の内に収めることが出来るかにありました。

当初は西多摩医療圏としての包括的なコロナ対応体制構築を発想しましたが、対策毎の実施主体が国・都・保健所・市町村と錯綜し、水際対策、発熱外来・PCR検査体制構築、連休・年末年始診療体制構築、クラスター対応等々、市町村毎の事情に応じた対応を余儀なくされました。

予防接種が未進行の昨冬第3波では、感染症病床が逼迫し医療崩壊が全国的に生じましたが、その後、集团的行政検査等支援、診療・検査医療機関体制の充実、自治体予防接種の推進等を、会員の皆様の過大なご協力を得て実施し、3公立病院の感染症病床もさらに増床されました。

しかし、昨夏の第5波感染拡大では、迅速な感染確認、濃厚接触者を含む的確なコホーティング、トリアージ、重症度に応じた医療提供という、特別措置法の枠組みが全国的に機能不全となり、多数の自宅療養者が生じました。ピーク時、西多摩でも一日の入院者100名余、自宅療養者400名余に達しました。幸い予防接種を終えていた高齢者層の発症や重症化が少なく、多数の会員による濃厚接触者・自宅療養者対応が成され、感染症病床では他圏域を含む受け入れに尽力され、秋には感染が一旦終息したかの様相となりました。

【西多摩圏域の今後のコロナ対策の方向性】

しかし、今後も新変異株等での再燃リスクは高く、医師会として気を緩めることなく、西多摩保健所、市町村、感染症病床を担う3公立病院、医療・介護・福祉関係団体等々、現場実務者間の情報共有からの課題抽出とその改善につき、活動を堅持して参る所存です。

保健所を主体とする“医療実務者連絡会”では、感染者個人情報に配慮しつつ、入院・在宅療養者状況の逐次共有から、**抗体カクテル療法一時利用も含む重症度に応じた病床活用円滑化システム構築等**が検討され、“地域医療構想調整会議（在宅ワーキングを含む）”“**新型インフル等感染症地域医療体制ブロック協議会**”等では、**在宅療養者の経口薬療法・重症度把握と対応・ポストコロナ療養者の病床・施設・在宅療養多職種連携**等が挙げられ、市町村とは**ワクチン3回目追加接種の推進**が喫緊の課題となっています。変異株感染拡大時、さらに生じるであろう在宅療養者支援を核とした対応策は、進藤幸雄副会長が別記事に示されていますので、ご参照下さい。

国の新型コロナウイルス感染症対策本部や、都の福祉保健局は、感染力増強変異株等による、感染再拡大を想定した、対応策を以下のように示しています。

いずれも現時点では、机上の想定や計画ですが、いざという時、それをどのように現実のものとするかは、私達、現場実務者の取り組みに掛かっています。会員の皆様には恐縮ですが、重ねてのご協力をお願い致します。

【国主導の今後の強固なコロナ対策の概要】

- 感染力増強による急速感染拡大を踏まえ、ワクチン・検査・治療等からの予防・発見・早期治療・医療提供体制強化を、最悪の事態を想定して備える
- 感染リスク・重症化・病床ひっ迫回避から、健康・経済社会活動を継続する新たな日常を実現する
- 変異株等感染拡大時は、強い国民行動制限、通常医療制限・緊急病床確保措置を視野に入れる

【都の今後のコロナ対策の概要】

必要な方が迅速に病床や臨時の医療施設等に受け入れられ
確実に入院につながる体制

- 必要な病床数6,891床確保 (今夏と比べて約3割増の入院患者の受け入れが可能)
- 入院調整本部に専任の転退院支援班(仮称)を設け、**転退院を促進**



- 酸素・医療提供ステーションの**多機能化**
 > 外来診療や入院待機者の診療等機能を強化



- 症状に応じた患者搬送を円滑に行うため、**搬送用陰圧車両の増**や効率的な配車オペレーションにより、**輸送人員を増加**



すべての患者が速やかに、継続して健康観察や診療等を受けられる体制

- 保健所や発熱相談センターを介さない診療・検査体制の拡充
 > 発熱時に診療・検査を行う医療機関の役割の強化と更なる公表



- 医療機関による療養種別の勧奨等
 > 無症状者や重症化リスクのない患者に対する**宿泊療養の勧奨**や自宅療養者の**健康観察の実施**



- 陽性判明後、宿泊療養を希望する患者が、自ら申込可能な電話窓口を設置

【宿泊療養申込窓口】
03-5320-5997

症状の変化に迅速に対応して必要な医療につなげるとともに、
保健所の業務負担を軽減

- 往診を行う**拠点病院**の設置
 > 往診の供給量が不足する地域や往診が効率的でない地域において、**往診等**を**広域的に行う医療機関**と地域の医療機関との連携強化



- 特養や老健、児童養護施設等の施設に対する**クラスター対策**

- > クラスターが発生した際、往診対応や**中和抗体薬投与**等により施設内の更なる感染を抑制



- **保健所DX(業務のデジタル化)の推進**

- > 患者調査において**音声マイニング技術**(患者との電話のやり取りをテキスト化・要約化する技術)を活用
- > 患者対応状況等の進捗の見える化による情報共有



必要な医療人材の確保

- **東京都医療人材登録データベース**の設置

- > 感染症法第16条の2に基づく協力要請に応じる医療機関等や医師・看護師が人材情報を登録する**東京都医療人材登録データベース**を設置
- > 東京都医師会による協力や東京都看護協会による協力(ナースバンクによる人材派遣)に加え、医療提供体制の逼迫時に速やかに医療人材を確保するため、**予め登録し従事につなげる新たな仕組みを構築**

【医師会の在り方革新の方向性】

コロナ禍の医師会諸事業では、地域住民向け啓発活動の縮小を余儀なくされましたが、保健所や自治体との連携及び各種学術研修会・パネルディスカッション等研鑽の機会につきましては、可能な限り Web 開催で実施し、質量とも概ね堅持できていると認識しております。

会務収支関連では、納涼・忘年・賀詞交換会等集合型イベントが中止され、余剰となりました会務運営諸経費は、総会でご了承頂きましたように “「Society Ver5.0」イノベーションを活用した人間中心社会に求められる新たな医師会様式”の実現を目指し、特に ICT 化の整備に振り向けさせて頂きました。

◆医師会事業の ICT を活用した革新

近い将来、医療システムの根幹的デジタル化により、マイナンバーカード・健康保険証・健診医療情報 (Personal Health Record)・電子カルテ・電子処方箋等が融合され、病期や状態像に応じて、複数の医療機関が個々の診療情報を一元化的に共有する時代となりましょう。それらは平時・有事を問わず、迅速かつ臨機応変な医療提供の基盤となるものと期待されます。時代に立ち遅れることなく “新たな医師会様式”の確立のため、医師会業務の見える化・文書階層化・ペーパーレス化、理事会・公益目的事業・生涯研修の ICT 化、電子カルテ・入退院退所・多職種等医療介護情報連携ネットワークの活用を推進する体制づくり、また行政や医師会通知・医療情報・諸記録等のクラウド化から、会員の皆様が安全にそれらの情報に逐次、直接アクセスできる体制づくりを目指します。その端緒として、今般、まず理事会のペーパーレス化デジタル化を図りました。

◆医師会事業継続計画 (BCP) の強化

繰り返し申し上げます通り、震災等自然災害時医療体制を主に議論して来た、地域医療の BCP において、今般の “新興感染症パンデミック”の経験を “時代を超えた想定事案”として真剣に見直し、ICT 技術等をも駆使し、平時の医療提供体制を、瞬時に有事の陣形に転換し立ち向かい得る、医療・介護・福祉施設から在宅までの幅広い療養基盤を支えるシステムとして想起、策定し、さらにその研磨を、次世代会員の不断の改善に委ねたいと存じます。

そしてその命・生活・社会インフラを守りうる確かな基盤が、これまで取り組んで来た認知症や各種疾病・病床機能連携、フレイル予防、摂食や栄養支援等とともに「地域包括ケア」の一環として位置づけられ確立されますよう、会員の皆様の更なるご協力を願い、新年のご挨拶と致します。

Society Ver.5.0における“新たな医師会運営”
業務・文書・決済・会議・研修等のICT化

業務と文書の階層化とクラウド化

クラウドストレージ (Cloud Storage)

医師会サーバーと相互Backup連動

会員も直接アプローチ可能

理事会・協議体・研修等のペーパーレス化・遠隔化

別会場から参加

医療機関や自宅から遠隔参加

保健所だより

1. 西多摩圏域感染症発生動向

2021年第40週～第48週(10/4-11/29)の間に保健所で受理された感染症について、管内(青梅・福生・羽村・あきる野・瑞穂・日の出・檜原・奥多摩)の医療機関より以下の報告がありました。

(1) 全数報告疾患 届出件数

〈二類感染症〉

- ・結核 13件 肺結核6件、その他の結核3名、潜在性結核感染症4件。年齢は、30代1件、50代2件、70代2件、80代5件、90代3件。

〈三類感染症〉

- ・腸管出血性大腸菌感染症 3件 患者2件、無症状病原体保有者1件。
血清型・毒素型はO型不明・VT1 1件、O103・VT1VT2 1件、O157・VT1VT2 1件。
年齢は60代2件、90代1件。推定感染地は東京都3件。
推定感染経路は経口感染3件。

〈四類感染症〉

- ・つつが虫病 4件 年齢は60代1件、70代1件、80代2件。推定感染地はいずれも国内。

〈五類感染症〉

- ・カルバペネム耐性腸内細菌感染症 1件 病原菌はKlebsiella pneumoniae、年齢は80代。
推定感染地は国内、推定感染経路は院内感染1件、90日以内の海外渡航歴無し。
- ・百日咳 1件 年齢は10歳未満1件。百日咳含有ワクチン接種：4回1件。

〈新型インフルエンザ等感染症〉

- ・新型コロナウイルス感染症 53件(疑似症・取り下げ除く)

(2) 定点報告疾患 届出件数

定点種別	疾患名	第40週 10/4～	第41週 10/11～	第42週 10/18～	第43週 10/25～	第44週 11/1～	第45週 11/8～	第46週 11/15～	第47週 11/22～	第48週 11/29～
インフルエンザ	インフルエンザ(外来)									
小児科	RSウイルス感染症						1	1		
	咽頭結膜熱		3	3				2		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		3	3	6	1	2	3		2
	感染性胃腸炎	20	14	26	17	17	21	17	20	42
	水痘		2		1					
	手足口病		2		1					
	伝染性紅斑							1		
	突発性発しん		2		2		2	2		
	ヘルパンギーナ	6	8	3	13	14	12	11	5	5
	流行性耳下腺炎			1					1	
	不明発疹症									
川崎病										
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎									
基幹病院	細菌性髄膜炎									
	無菌性髄膜炎									
	マイコプラズマ肺炎									
	クラミジア肺炎									
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)									
	インフルエンザ入院									
	合計	26	34	36	40	32	38	37	26	49

2. 都内で注目されている定点把握対象疾患 48週(11/29～12/5)時点

- ・感染性胃腸炎の定点当たり報告数が増加しています。

文責：西多摩保健所保健対策課

専門医に学ぶ 第152回

「やわらかくて、かたいはなし ～老年期の発達課題とは?～」

公立阿伎留医療センター 緩和治療科 部長 小林 薫

西多摩医師会の皆様、公立阿伎留医療センター緩和治療科の小林です。今回「専門医に学ぶ」という場を与えて頂き、どのような内容がお役に立てるか思案しました。というのも緩和ケアは独立した専門領域と言うより全ての医療分野に関わる基盤領域のようなもので、症状コントロールの為に細かい薬剤使用スキルなどは存在しますが、場所や時代が変わればスキルも変わりますので、その手のおはなしはあまり有益ではないと思った次第です。そこで今回は若干ソフトな話題として、緩和ケア臨床につきまとう心の課題、特に死や不治の受容について取り上げてみました。

そうはいつても一般論や抽象的な話では味も素っ気もないので、まず緩和ケア外来で長期間フォローされた乳がん患者さんの事例を紹介致します。

【事例】乳がん術後再発の患者さんです。主要経過ですが、30歳代に乳がんを発症し当時の根治術を施行しました。その後10年間再発なく、40歳代で乳房再建術を施行したところ3年後に乳がんの再発が発見されます。その際に精神的にパニック状態になり、緩和ケア外来を紹介初診となりました。初めの頃は不眠と不安に対して精神科治療薬も使用しましたが、1～2か月で落ち着き、以来60歳代で亡くなるまで約20年間にわたり精神療法の外来を継続しました。再発は肝臓転移が主体でしたが、この20年間に肝動注化学療法や肝臓切除術3回、放射線治療も数回実施し、その度に病状は改善しました。結局亡くなる3か月前まで全身投与の化学療法を施行しており、それまで一度も乳がん治療が中断することはありませんでした。また治療以外の生活においても、乳がん再発から間もなく実父をがんで亡くしました。次に、当初外来に付添されたご主人に肺癌が発見され、患者さんより数年早く逝去されました。患者さんは、「この世に残していくのが忍びないと語っていたご主人を自分の方が見送ることになるとは」と語られています。また再発当時は学生だった息子さんも結婚し孫が3人できましたが、孫に先天性の障がいが見つかり、ご主人を亡くした患者さんと二世帯同居を始めましたが、結果的には長男さんは離婚され、最後は大きな家で患者さんと長男さん2人暮らしになりました。亡くなる前年に次男さんが結婚され、患者さんは「お嫁さんに次男さんを託せてとても安心した」と話していました。そのほかにも夫の実家との軋轢や一人暮らしの実母との複雑な関係など、緩和外来では乳がん以外の話題に事欠きませんでした。最期はご主人が亡くなられた地元のホスピスで最後を迎えましたが、亡くなる数日前に病室を訪ね最後の挨拶をした際に、付き添っておられた息子さんたちに、「母のことは、自分たちより絶対に先生の方が詳しい」と言われたことが思い出されます。

ここからは副題の、少しかたい(難しい)話題に移ります。緩和ケア外来では、この事例のように身体的な苦痛の対応でもなく、精神的なカウンセリングでもない、人生相談のような場面が時々あります。特に遺族外来では遺族に身体的な苦痛はないので、配偶者を亡くされたご遺族が残りの人生に意味を見いだせないと言えられることもあり、緩和の業界で言うスピリチュアル(実存的)な課題がテーマとなります。それに日々緩和ケア病棟で最期を迎えられる患者さんを見てい

ると、事例のように自分なりに人生の最後を受容し穏やかに亡くなっていく患者さんと、死を否認し続け絶望状態で亡くなっていく患者さんに分かれる様に感じます。この死や人生の受容は、どのような心的過程で達成されるのでしょうか？

今回ご報告した事例には、死の受容に関して重要なヒントが示されていると考えています。患者さんが40歳代で乳がん再発が判明した際には、その運命を嘆き悲しみ、まさに絶望のどん底でした。それから20年間、決して楽しい思い出を重ねたわけではなく、むしろつらい治療体験や心をさいなむ家族のイベントを繰り返して経験し、最後には「楽じゃなかったけど悪くなかった」「ここまで、生きてこられて良かった」と、ご自分の人生をきわめて自然な形で受容されました。おそらくこの20年間が楽ではない、つらい苦しい時間であったことが、最後の受容に繋がったと感じます。

このような臨床場面での精神的交流は、実は緩和に特有のものではなく、皆様の普段の臨床でも影に隠れた形で生じているものです。ただこの種の内容を主題に面接を行う場合、経験論や個人的素養（人生経験など）だけで対応してしまうと、独善や上から目線の（むしろ患者さんが答えを求めてくる）交流となり、患者さんの多様性を生かせなくなりがちです。特に我々医療者自身も死に向かって生きる存在なので、患者さんに近づきすぎると一緒につらくなり、遠ざかりすぎると冷淡になるのは自然だからです。そこで臨床心理学や精神分析の知見を学び、精神療法のトレーニングを積むのですが、今回はその中で、死の受容に関して有意義と考える学説を紹介したいと思います。

E. H. エリクソンは、精神分析の開祖であるフロイトの娘：アンナ・フロイトの元で精神分析を学んだドイツ出身の精神分析医で、臨床心理の世界では古典と言われるぐらいポピュラーな学説、アイデンティティの発達理論を称えた人物です（文献1）。本来は「発達理論」と謳うように、幼少期から成人後期までの成長を8段階に分け、どの様な課題を果たすことでアイデンティティを確立していくかについて論じました。晩年になりエリクソンは、この発達理論に9段階目の老年期課題を付け加えています（文献2）。それは「職業からの引退、過去の清算、病気との共生、そして死の受け入れ」といった内容で、おそらくエリクソン自身が自らの加齢に伴い、社会に参画していく段階の発達だけでは個の人生が完結せず、むしろ社会から退出する段階で求められるころの成熟という課題に関心が移行したのだと推測します。さらに晩年死の受容そのものをテーマにした論文も発表しています（文献3）。詳細はこの場には書き切れませんので省きますが、たとえば「この世はすべて一つの舞台、ひとはみな役者に過ぎぬ」とか、重要なキーワードである「統合」と「英知」により「生き生きとした感性」が取り戻される、など、あえて言えば科学的というより文学的論説だと感じます。興味をもたれた方は、是非ご一読いただければ幸いです。

我々医療者自身ががん患者となった場合、実は対処困難な患者になることが多いと言われていきます。これはつらい現実からころを守ろうという防衛反応により、自分の人生を客観化し、不安や怒りといった主観的な感情を抑圧するためだと言われています。エリクソンらの称える老年期の発達（成熟）課題は、医療者にこそ必要不可欠な課題であると考えます。今回の拙文が皆様の人生の一助になれば幸いです。

1. アイデンティティとライフサイクル エリク・H. エリクソン（著）、西平 直（翻訳）、中島由恵（翻訳） 誠信書房；2011
2. 老年期一生き生きしたかかわりあい エリク・H. エリクソン、ヘレン・Q. キヴニック、ジョーン・M. エリクソン、みすず書房；1997
3. ライフサイクル、その完結 エリク・H. エリクソン、ジョーン・M. エリクソン、みすず書房；2001



第6波に備えて

西多摩医師会 副会長 進藤 幸雄

令和3年12月9日西多摩医師会在宅医療講座「西多摩地域 コロナ禍における在宅医療連携」がWeb配信で行われました。青梅市立総合病院大友建一郎院長、西多摩保健所播磨あかね所長をはじめ、東青梅診療所武信康弘先生、訪問看護ステーションあん雀田和代所長、みどり薬局小山内智紀薬剤師に参加して頂き、新型コロナウイルスによる第5波で何が起きていたのか、第6波に備えて何をすべきなのか、などのお話を頂きました。

第5波ピーク時、病床は逼迫し、西多摩地域でも400名余りの自宅療養者が発生しました。西多摩医師会では、保健所と協働し、自宅療養者支援強化事業の仕組みを作りました。医師会協力医の先生方の多大なご尽力により、6月22日から9月24日までに延べ195件の自宅療養者支援が行われました。この活動のお陰もあって、幸い西多摩地域では、自宅療養中の死亡者を一人も出さずに第5波を乗り切ることができました。

しかしながら、第5波で起きていたことを振り返りますと、基幹病院の病床は逼迫し、病床転換や増床等、様々な取り組みを実施し、なんとか重症患者を受け入れていた現状がありました。保健所機能も逼迫し、入院手配や自宅療養者のフォローアップに十分な時間が取れない事態となっております。今後、第5波と同等又はそれを超える感染拡大が発生した場合、無事に乗り切れるとは限らず、第6波への対策をしっかりと立てていく必要があります。

コロナ禍の医療は、謂わば、災害時の医療であり、平時から多くの病床を確保しておくことは不可能です。よって次に感染爆発が起きた時には十分な病床が確保されている、という保証はないと考えるべきです。次回も必ず自宅療養者は溢れると予想されます。その時まで第5波対応を振り返り、対策を検討しておく必要があります。

基本的に高齢者やハイリスク者は優先的に入院や宿泊施設での療養となりますが、第5波ピーク時は、高齢者やハイリスク者であっても自宅療養を余儀なくされました。従って、まず入院や自宅療養のトリアージを的確に行う必要があります。これは保健所が実施してきましたが、重症者が入院できないような機能不全状態に陥らないよう、数週先の感染状況を予想しつつ、トリアージ基準を変化させ、可能な限り逼迫を回避する必要があると思われます。大変困難なことではありますが、保健所に期待しているところです。イメージを図に示してみました(図1)。感染拡大状況に応じてレベル1～3に分類、レベル1では、軽症者であっても、できるだけ観察可能な宿泊療養施設や入院をお願いしたいと思います。感染が拡大してきた場合(レベル2)では、軽症者は自宅療養へ、リスク保有者や中等症者は、宿泊療養施設や酸素・医療提供ステーションへ。最大逼迫時(レベル3)には、軽症、中等症が自宅療養になると予想されますが、中等症以上の自宅療養は危険です。第5波において都心部では、中等症以上の方が行き場がなく、往診で酸素濃縮器を使用するケースが多発しました。しかしそのような事態は戦場と変わらず、必要な医療を受けられないまま致命的となるケースが発生します。その様な事態は可能な限り回避すべきです。現在、酸素・医療提供ステーションは、中和抗体療法専用施設となって軽症者のみを受け入れていますが、逼迫時には、本来の構想通り、酸素供給、重症化予防治療、入院待機を行う施設として運用するなどして、中等症を可能な限り常に観察できる体制になることを望みます。

また、可能な限り重症者を出さない取り組みとして、ワクチン接種の推進に加え、中和抗体療

法等の積極的導入も挙げられます。現在、保健所、公立病院、医師会を中心に定期的に実務者会議が開かれており、公立病院での中和抗体療法の効率的な運用についても議論していますが、公立病院に限らず実施可能な施設の拡充が望まれます。特に高齢者施設等では、発生時に備え、連携医療機関と相談し、実施可能な体制を整えておくことが望まれます。これに関しては、今後内服薬承認によって状況が変わるとは思いますが、早期に重症化予防治療導入を検討しておくことが望まれます。

最後に、自宅療養者の健康観察は主に保健所が行って来ましたが、その機能が逼迫し機能不全に陥っていたことも判明しています。今後はかかりつけ医や、医師会で支える取り組みも必要です。保健所が逼迫している状況では、当然診療所も逼迫しており、自宅療養者の健康観察まで行うことは、相当に困難な課題とします。更に、夜間や休日はどうするのか、という課題もあります。しかし、日中のみでも、電話対応のみでも、何もしないよりは意味があると考えます。十分な健康観察が行われれば、往診や救急搬送はほとんど必要なかったと報告している地区医師会もあり、可能なことから取り組んでいくべき課題とします。

以上、拙い意見ではありますが、第6波で西多摩地域の医療が機能不全に陥らないように、意見を書かせていただきました。①逼迫を見据えたトリアージ機能の調整②重症化予防治療の拡充③自宅療養者健康観察機能の強化が私の思うところです。

図1 第6波発生時医療提供体制

	レベル1	レベル2	レベル3
軽症	宿泊・酸素St・入院	自宅療養	自宅療養
軽症+リスクあり	宿泊・酸素St・入院	自宅療養・宿泊・酸素St.	自宅療養
中等症Ⅰ	入院	酸素St・入院	自宅療養・宿泊・酸素St.
中等症Ⅱ	入院	入院	酸素St・入院
重症	入院	入院	入院

広報だより

ウイルスに負けない

ちひろメンタルクリニック 三ツ汐 洋

新年、あけましておめでとうございます。2021年はコロナ、コロナで明け暮れた1年でした。しかし、ピーク時には5000人を超えた東京の感染者も年末には30人程度にまで減少し、一息ついた形になっています。年末年始の人の交流が増える時期を経過して、さて、現在はどのくらいになっているのでしょうか。また、2021年というと、東京オリンピック・パラリンピックの開催がありました。当初私は、このコロナの蔓延する中での開催には疑問を感じていたのですが、終わってみると、大きな感染の拡大もなく、無事に終えることができていました。開催関係者の大変な努力のたまものと思いますが、コロナ禍（この言葉を何回聞いたことでしょうか）で、これに負けていないという日本の底力、また大げさに言えばウイルスに負けないという人類の底力

を示したという点で、大いに評価できることであつたと思います。

さて、今年に入って、3回目の新型コロナウイルスワクチンの接種が始まります。ワクチン接種という点、毎年冬になると行っているインフルエンザワクチンのことが思い浮かびます。コロナワクチンもインフルエンザと同じように、これから毎年1回、いや2回接種することになるのでしょうか。インフルエンザについて調べてみると、野生のカモが宿主となっていて、カモに対しては病原性がないものの、腸管内で増殖してフンとともに排出され、それが豚などの家畜を経由してヒトに感染するということのようにです。カモによって運ばれ、毎年流行を繰り返すようですが、コロナウイルスに関してはどうでしょう。野生の宿主がいるのか、もしいたとしたら、その移動の距離はどうか、気になるところです。天然痘ウイルスは人間が唯一の宿主で、そのために撲滅できたのだと思いますが、コロナウイルスはどうでしょうか。

繰り返しになりますが、昨年の東京オリンピック・パラリンピックで、ウイルスに負けないところを見せたように、今年もまたウイルスに負けないで1年を過ごせることを願います。

連載企画



コロナウイルスの命名の仕方

下村 智

コロナ感染症が世界中に広がって約2年になります。つい先日までは第5波の大きな危機にあたり、東京をはじめとした都市部では患者さんが病院での治療を受けられずに自宅療養となり、その自宅療養者の中から死亡者が出るという報道がされたりしました。医療崩壊という気の毒な状況で悲しくなりました。

最近やっと落ち着いてきた感があり、会員の皆さんもほっとしているところだと思います。またこの間にSARS-Cov-2ウイルスは α 、 β 、 γ 、 δ 、 ϵ 、 η 、 ι 、 κ 、 λ と変異を起こし人間にリスクと恐怖をもたらしています。余談ですが、名前がギリシャ語なのはイギリス株、インド株というより議論を簡易化するとともに、名前による偏見を取り除くためだそうです。

その中でここ2年の間の企業努力と国策により、ワクチンの開発は画期的な手法によるものであり、また先進国を中心とした接種である程度抑え込むことに成功したかに見えました。しかし、デルタ(δ)株、オミクロン(\omicron)株という変異種により不明な点がありますが、感染者数はまた増加傾向にあるようで、3回目の接種の間隔はいろいろですが追加接種が実施されています。

今回の画期的なmRNAワクチンに対しての不安から、高等教育を受けた人たちの中にも副作用が多いとか、100%有効ではないのですよねとか「批判的思考」によって予防接種を受けないという選択をする人がいることは残念な感じがします。

日本人の接種対象者の約80%前後が受けて集団免疫の有効性を実証しているのではないかという事実をもっと言ってもいいのではないかと思います。

海外では、日本と同じくらいのワクチン接種率でも、COVID-19の感染者数をコントロールできていない国もあることは事実です。

今後、麻疹、子宮頸がん等のワクチンの必要性についても同様な啓蒙活動をしていくことも大切なことかなと思えました。

◇学術講演会予定

令和 3. 12. 20

開催日	開始～終了 時間	会場	単 位 数	カリキュラム コード	集会名称・演題	講師（役職・氏名）
1.13 (木)	19:00 ～ 20:00	【Web 講演】	1	42	学術講演会 「高齢者心房細動を考える会」 「高齢心房細動患者に対する抗凝固療法とカテーテルアブレーションの適応」	福岡山王病院 ハートリズムセンターセンター長 国際医療福祉大学医学部 特任臨床教授・大学院教授 熊谷 浩一郎 先生
1.24 (月)	19:00 ～ 20:00	【Web 講演】	1	78	学術講演会 「脳卒中診療を考える会」 「超高齢社会における適切な抗血栓療法 ～脳梗塞予防と頭蓋内出血回避を如何に両立させるか～」	国立病院機構九州医療センター 臨床研究推進部長 脳血管・神経内科 矢坂 正弘 先生
1.24 (月)	19:00 ～ 20:00	【Web 講演】	1	80	学術講演会 「心不全と在宅医療を考える会 ～エンレスト錠高血圧症適応追加記念～」 「これからの心不全の在宅診療について」(仮)	しながわ内科・循環器科 クリニック 院長 品川 弥人 先生
2.2 (水)	19:00 ～ 20:00 (仮)	【Web 講演】			学術講演会 疼痛治療を考える会 in 西多摩 「ガバペンチノイドの可能性と課題」	獨協医科大学 麻酔科学講座 主任教授 山口 重樹 先生
2.3 (木)	19:00 ～ 20:00	【Web 講演】	1	74	学術講演会 「糖尿病と高血圧」 【特別講演】 「糖尿病合併高血圧診療において 気にかけていただきたいこと」	京都府立医科大学 糖尿病治療学講座 講師 牛込 恵美 先生
2.4 (金)	19:30 ～ 20:30	【Web 講演】	1	33	学術講演会 「西多摩循環器疾患 Web セミナー」 「明日から使える抗血栓療法 ～超高齢・高血圧リスクをふまえて～」	耳原総合病院・副院長 循環器センター長 石原 昭三 先生
2.15 (火)	19:20 ～ 20:50	ハイブリッド 講演			学術講演会 Diabetes & Incretin Web Seminar in 青梅 【特別講演】 「GLP-1 受容体作動薬、選択の時代へ」 【パネルディスカッション】 「最初の注射剤としての GLP-1 受容体作動薬の有用性」	社会医療法人大和会 東大和病院 糖尿病長センター長 犬飼 浩一 先生 司会：野本医院 院長 野本正嗣先生 コメンテーター：犬飼 浩一 先生 パネリスト： 青梅市立総合病院内分泌 糖尿病内科 足立 淳一郎 先生 高木病院 院長 南 明宏 先生
3.2 (水)	19:30 ～ 20:30	【Web 講演】			学術講演会 【講演 1】 「当院のコロナ対策について」(仮) 【講演 2】 「喘息治療の Update」(仮)	公立阿伎留医療センター 呼吸器内科部長 後藤 慎一先生 渡辺医院 院長 渡邊 東 先生
3.3 (木)	19:30 ～ 20:30	【Web 講演】			学術講演会 「高齢者心房細動を考える会」 「超高齢心房細動患者における抗凝固療法のベネフィットは？ ～ELDERCARE-AF の結果から適正使用を考える～」	遠賀中間医師会 おんが病院 循環器内科 部長 吉田 哲郎 先生

理事会報告

★ Information

10月定例理事会**令和3年10月26日(火)****西多摩医師会館**

(出席者：玉木・江本・進藤(幸)・土田・宮城・古川・進藤(晃)・井上・下村・鈴木・吉田・中野・野本)

【1】報告事項**(1) 都医地区医師会長連絡協議会報告**

資料に沿い、10/5に開催された標記協議会の伝達事項等について説明報告された

(2) 各部報告

総務部：12月第2回の理事会(予定12/28)の開催については、第1回(12/14)理事会にて決定する件

総務部(社会保険担当)：資料により、10/13に開催された地区医師会社会保険担当理事連絡会の内容等について

10/13に開催された市町村国保主務担当者との懇談会の内容等について

公衆衛生部：資料により、10/19に開催された地区医師会感染症担当理事連絡会の内容等について

資料により、令和4年度国民健康保険特定健康診査に係る委託契約単価に関する行政からの通知内容について

(3) 地区会報告(各地区理事)：

青梅市

福生市 10/15、2市1町のPCRセンターに係る会議開催
集団接種の状況について

羽村市 集団接種の状況について

第3回目の接種について検討中

あきる野市

瑞穂町 第3回目の接種について検討中

日の出町

奥多摩町

(4) その他報告：

○「自宅療養者・待機者に対する医療支援体制の検証に関する調査」の回答について
資料により、標記調査に対する回答内容について

○酸素・医療提供ステーション(味の素スタジアム)への医師派遣について(出務期間延長のお願い〔11月～12月〕)

資料により、標記依頼に対する対応状況等について

- 国立成育医療研究センターが実施する講習会のご案内について
 - 東京都災害拠点精神科連携病院の指定について
- 資料により、上記2件に関する都医からの通知内容について

【2】報告承認事項

(1) 入退会会員、会員異動について

資料により、異動届2件が紹介・報告された

(2) 糖尿病性腎症重症化予防事業への取り組みにかかる要望書について

資料により、標記に係る行政からの協力要請内容が紹介され、要望への協力が承認された

— 承認 —

【3】協議事項

(1) 東京都災害時医療救護従事者の推薦について

資料により、標記に係る依頼内容等が説明・紹介され、登録機関の1組から辞退要請があることから1組の救護従事者登録を災害医療に関係する機関・人材に依頼してみることにした

【4】その他

〈総務部・追加〉

(1) 今年度の「医療懇」について

前年同様にて開催に向け準備を進めることについて再確認

11月定例理事会

令和3年11月9日(火)

西多摩医師会館

(出席者: 玉木・江本・進藤(幸)・土田・宮城・古川・井上・下村・鈴木・吉田・中野・野本)

【1】報告事項

(1) 各部報告

特になし

(2) 地区会報告(各地区理事):

青梅市

福生市 11/2 理事会開催

羽村市 10/31 市制30周年記念行事に出席

あきる野市

瑞穂町

日の出町

奥多摩町

(3) その他報告:

- 新型コロナウイルス感染症に感染した透析患者の受け入れ強化に向けた診療体制の確保について
 - 新型コロナワクチン追加接種（3回目接種）に使用するファイザー社ワクチンの配分について
- それぞれの資料により、上記2件の都医からの通知内容等について説明・報告

【2】報告承認事項

(1) 入退会会員、会員異動について

資料により、異動届2件が紹介・報告された

【3】協議事項

(1) 「多摩連合読売会」からの寄付金の活用について

資料により、標記寄付金の経緯・内容等について紹介・説明。活用方法等を検討するため、使途等についての案を考えておいてもらうよう各理事に依頼

(2) 「医療懇話会」の議題等について

コロナ禍を振り返って「西多摩医療圏における課題等」について意見・情報交換する場とするよう準備。詳細については再度検討することとした

(3) 東京都災害時医療救護従事者の推薦について（継続）

肥留川先生に候補者について相談・推薦いただき再検討することとした

【4】その他

特になし

11月定例理事会

令和3年11月30日(火)

西多摩医師会館

(出席者: 玉木・江本・進藤(幸)・土田・宮城・古川・進藤(晃)・田中・井上・下村・鈴木・吉田・中野・野本)

【1】報告事項

(1) 都医地区医師会長連絡協議会報告

資料に沿い、11/19に開催された標記協議会の伝達事項等報告

(2) 各部報告

経理部: 資料により令和3年度9月期の収支内容・状況について説明・報告

学術部: 学術部会を12/24に開催予定

(3) 地区会報告(各地区理事):

青梅市

福生市 12/4に災害時救護所開設訓練を実施予定

羽村市

あきる野市 11/15 にワクチン未接種者への対応について協議

瑞穂町 町民のワクチン接種状況等について

日の出町

奥多摩町 行政と3回目接種に関する検討中

(4) その他報告：

○ 11/26 の「第12回地区医師会感染症担当理事連絡会」について

資料に沿い、標記連絡会の議題に係る内容と課題等について説明・報告

○ 新型コロナワクチン追加接種等に使用するファイザー社ワクチン及び武田モデルナ社ワクチンの配分等について

資料により、管内市町村へのファイザー社ワクチン配布予定について説明・報告

○ 次の感染拡大に向けた安心確保のための取組の全体像について

資料（新型コロナウイルス感染症対策本部）により、標記取組に係る概要について

【2】報告承認事項

(1) 入退会会員、会員異動について

資料により、正会員2名の入会申請が紹介・報告され承認された。また、準会員2名の退会及び異動届6件が報告された

— 承認 —

(2) 東京都災害時医療救護従事者の推薦について

資料により、肥留川先生からの推薦による標記従事者について都医への推薦が事後承認された

— 承認 —

(3) 令和4年度福生市立小中学校医（内科・耳鼻科・眼科）の選任について（依頼）

(4) 令和4年度羽村市立学校医の推薦について（依頼）

上記2件の依頼につき、福生地区及び羽村地区より前年度と同様の先生を推薦することが提案され承認された

— 承認 —

【3】協議事項

(1) 令和4年度学校医等各種報酬及び予防接種委託料について（要望）

資料により、標記に係る行政からの要望が紹介・説明され、対応を協議。予防接種委託料の1点単価については、現状維持の10.5円とすることで行政との交渉にあたり、最悪要望金額との間を目指すことが提案され可決承認された

— 可決承認 —

【4】その他

特になし

12月定例理事会

令和3年12月14日(火)

西多摩医師会館

(出席者: 玉木・江本・進藤(幸)・土田・宮城・古川・進藤(晃)・田中・井上・鈴木・中野・野本)

【1】報告事項**(1) 各部報告**

総務部・経理部：参考資料として今年度の事業計画が配布され、2022年度事業計画（案）の検討・策定について各役員に依頼。また、新規事業・変更・廃止等及び予算に変更等ある場合は事務局に連絡することとされた

学校医部：1/26に西多摩学校保健連絡協議会の開催決定及び内容・開催場所等について
地域ケア・在宅医療委員会：12/9に開催された在宅医療講座の内容・状況等について

(2) 地区会報告（各地区理事）：

青梅市

福生市 12/4に実施した災害時医療救護所開設訓練の状況等について
12/13、2市1町のPCRセンターに係る会議開催

羽村市

あきる野市

瑞穂町

日の出町

奥多摩町

(3) その他報告：

特になし

【2】報告承認事項**(1) 入退会会員、会員異動について**

資料により、準会員1名の退会が報告された

(2) 令和4年度青梅市立小・中学校学校医の推薦について（依頼）

標記依頼については、青梅市医師会にて調整が済んでいることから、資料にある医師を推薦することが承認された

— 承認 —

【3】協議事項**(1) 西多摩医師会共催名義の使用について（申請）**

資料により、標記共催名義の使用申請に係る経緯・内容等が説明され、当会名義の使用が決議承認された

— 可決承認 —

(2) 令和4年度学校医等各種報酬及び予防接種委託料について（再要望）

資料により標記に係る行政との交渉結果が説明・報告され承認された

— 可決承認 —

【4】その他

特になし

会員通知

- 会報11-12月号
- 宿日直表（青梅・福生・阿伎留）
- 学術講演会（11/11,11/16,11/17,11/19,11/24,11/25、12/7、12/8）
- にしたまネット講習会（11/30）
- 産業医研修会（帝京大学医師会1/8・9）
- 〃　　（板橋区医師会2/5）
- 〃　　（三鷹市医師会3/19）
- 令和3年度第3期分西多摩医師会諸会費請求書
- 新型コロナワクチンの時間外・休日の接種請求について
- 東京都肝疾患診療連携拠点病院が実施する研修のご案内について
- 令和3年度「日本医師会生涯教育講座」第II期（11月）の開催について
- 令和3年度第4回難病医療ネットワーク医療従事者向け研修の実施について
- 「初めての外国人患者受入れ体制整備始め方・進め方～基本の3ステップとその具体的手法の紹介～」におけるWebセミナー開催案内
- 医薬品医療機器等法上の効能・効果等の変更に伴う留意事項の一部改正等について
- オリンパス株式会社から消化器内視鏡用防護具の寄贈について
- 令和3年度第3回検案業務サポート研修会の開催について（多摩地域の登録検案医確保及び検案業務サポート事業）
- 第4期「東京在宅医療塾」資料及び講義映像について
- 外国人在留支援センター（FRESC）多言語ワクチン接種サポートの開設について
- （学校医）「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律の施行について（通知）」他の送付について
- 製薬企業から日本医師会へ医療用医薬品の供給不足等に係る情報を提供された場合のメンバーズルームへの公開について
- 東京都災害拠点精神科連携病院の指定について
- 新型コロナウイルス感染症に係る検査並びにワクチン及び治療薬の治験体制整備のための医療法上の取扱いについて
- 新型コロナウイルス感染症対応医療従事者支援制度の継続実施について
- 新型コロナウイルス感染症の診療報酬等に関する問合せ事項の整理について
- （産婦人科）令和2年度家族計画・母体保護法指導者講習会の開催について
- 保育所等におけるPCR検査の実施について
- V-SYS操作マニュアル第4.6版について
- 公立阿伎留医療センターより　電カル更新時の救急受け入れについて
- 公益財団法人日本医療機能評価機構医療事故情報収集等事業第66 回報告書の公表について
- 医薬品副作用被害救済制度等の周知・広報について（協力依頼）
- 新型コロナウイルス感染症の拡大に際しての電話や情報通信機器を用いた診療等を実施する医療機関の実施状況の報告（10月分、11月分及び12月分）について
- 「がん登録等の推進に関する法律」に基づく指定診療所の募集について（依頼）
- 令和3年度新型コロナウイルス感染症感染拡大防止継続支援補助金について
- 腰痛予防動画サイト開設のご案内
- 厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会における審議を受けた対応について
- 学校医におけるがん教育の外部講師に係る協力について
- 「がん治療連携指導料」の施設基準届出に係る連携保健医療機関の新規追加及び届出内容の変更等について（令和4年1月1日算定）
- 「東京都エイズ予防月間」ポスター
- 東京都立小児総合医療センター　小児在宅医療サポートチーム勉強会（11/11,1/13）
- 東京都立神経病院診療案内
- 健康食品に関する安全性情報共有事業について（協力依頼）
- 令和3年度後発医薬品安心使用促進に係る医療関係者向け講演会の開催について

- 令和2年度新型コロナウイルス感染症感染拡大防止・医療提供体制確保支援補助金の交付決定完了について（情報提供）
- 「令和3年度慢性疼痛緩和のための医療用麻薬適正使用推進講習会」の開催について
- 国保・社保審査関係連絡協議会における検討事案の募集について
- 「結核医療の基準」の一部改正について
- 令和3年度自賠責保険研修会の開催について
- 各都道府県における「診療・検査医療機関」の周知方針の状況について
- 新型コロナウイルスワクチンの個別接種に係る医療機関の収入に対する課税関係について（情報提供）
- コロナウイルス修飾ウリジン RNA ワクチン（SARS-CoV-2）に係る「使用上の注意」の改訂について
- ファイザー社ワクチン及び武田／モデルナ社ワクチンの有効期限の取扱いについて
- （産婦人科）母性健康管理指導事項連絡カードの改正および母性健康管理専用Webサイトについて
- （小児科）令和3年度東京都アレルギー疾患治療専門研修のご案内について
- （小児科）令和3年度乳幼児突然死症候群（SIDS）対策強化月間の実施について
- 令和3年度新型コロナウイルス感染症感染拡大防止継続支援補助金の電子申請受付開始について
- 新型コロナワクチン追加接種（3回目接種）に係る接種券等の印刷及び発送について
- 厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会の議論と追加接種に関する今後の見通しについて
- 季節性インフルエンザワクチンの供給について（更新情報）
- 医療事故調査制度研修会の開催について
- 令和3年度「児童虐待防止推進月間」の実施について
- 医療従事者のための児童虐待初期対応に関する研修について
- 「新型コロナワクチン予診票の確認のポイント Ver.4.0」について
- 令和3年度「日本医師会生涯教育講座」第Ⅲ期（12月）の開催について
- 感染性胃腸炎の流行期に向けた感染予防対策の徹底について
- 「予防接種必携令和3年度」および「インフルエンザ・肺炎球菌感染症予防接種ガイドライン2021年度版」について
- 指定難病及び小児慢性特定疾病（令和3年度実施分）の追加等について
- 「オンライン資格確認」本格運用開始について
- 厚生労働省「疑義解釈資料の送付について（その81）」の送付について
- 新型コロナウイルス感染症の発生届の提出について
- 新型コロナワクチン追加接種（3回目接種）に係る接種券等の印刷及び発送について
- 令和3年度第1回西多摩在宅医療講座受講者募集のお知らせ
- 医療機関を標的としたサイバー攻撃への対応について（注意喚起）
- 令和3年度児童虐待対応研修【専門講座第3回】の開催について
- 東京都医療人材登録データベースの開設および登録の協力依頼について
- 新型コロナウイルス感染症患者の治療に必要な人工呼吸器無償譲渡について
- 新型コロナワクチン接種に係る費用請求及び1、2回目用予診票の変更について
- 宿泊療養申込窓口の設置について
- （産婦人科）「助産師による自宅療養中の妊産婦への健康観察事業」の実施について
- 「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き・第6.0版」の周知について
- （小児科）令和3年度地域小児医療研修事業（臨床研修・小児初期救急コース）受講者の再募集について（その1）
- 「糖尿病合併症を理解する為の勉強会」（12/15）
- 「新型コロナワクチン予診票の確認ポイント Ver4.0」について
- 年末年始休館のお知らせ
- ポスター「**（親）**医療証をお持ちの方へ」の掲示について
- （青梅市より）東京都国民健康保険被保険者証等の様式の一部変更に伴う周知について
- 経済産業省 IT 導入補助金2021 について（情報提供）

- 「お薬手帳（電子版）の運用上の留意事項について」の一部改正について
- 医療事故情報収集等事業「医療安全情報」の提供について
- 新型コロナウイルス感染症対応 日本医師会休業補償制度について（令和4年1月始期）
- 令和3年度 東京都医師会予防接種講演会の開催予告について
- 新型コロナウイルスワクチンの間違い接種情報NO.3について
- 今冬のインフルエンザ総合対策の推進について
- 保険医療機関等における被扶養者の資格確認等における留意点（再周知）
- （病院）「医師の働き方改革に関する『トップマネジメント研修』のご案内」（11月～2月開催分）の送付について
- （三公立）新型コロナウイルス感染症対策に係る病床の確保状況・使用率等の「見える化」について
- 診療・検査医療機関に係る情報の東京都ホームページ掲載（地図上での表示）について
- （産婦人科）「性犯罪・性暴力被害者支援に係る協力意向調査」への協力依頼について
- （学校医）令和3年度 東京都医師会学校医会 第46回学校医大会特別講演の視聴について
- （学校医）令和3年度がん教育総合支援事業「がん教育シンポジウム」の開催について
- ファイザー社ワクチン及び武田/モデルナ社ワクチンの有効期限の取扱いについて
- ファイザー社ワクチンの保有状況に係る報告について
- 「東京都地域医療構想調整会議在宅療養ワーキンググループ」傍聴のご案内
- 酸素・医療提供ステーション（味の素スタジアム）への医師派遣依頼
- （三公立）B.1.1.529系統（オミクロン株）の感染が確認された患者等に係る入退院及び航空機内における濃厚接触者の取扱いについて
- 年末・年始の発熱患者等の診療体制確保について
- 例外的な取扱いとして接種券が届いていない追加接種対象者に対して新型コロナワクチン追加接種を実施する際の手続き運用について
- （眼科）眼の障害に係る障害認定基準の改正及び障害年金診断書（眼の障害用）の様式変更について
- 新型コロナウイルスワクチン追加接種の接種間隔に係る例外的取扱いについて
- 新型コロナウイルス感染症流行下における薬局での医療用抗原定性検査キットの取扱いに関する留意事項について
- 令和3年度「医療保険講習会」・「医療保険事務講習会」講演動画及び資料のホームページ公開について
- 血管病変等を著しく増悪させる業務による脳血管疾患及び虚血性心疾患等の認定基準について
- 薬局における新型コロナウイルス感染症の経口治療薬の配分に係る医薬品提供体制の整備について
- 新型コロナウイルスワクチン追加接種（3回目接種）の体制確保について（その2）
- オンライン請求医療機関に対する紙媒体による返戻廃止（延期）について
- 東京都災害拠点精神科連携病院の指定について
- V-SYS操作マニュアル第4.8版について
- 情報提供
- 青梅市立総合病院「がん診療セミナー」
- 東京都かかりつけ医認知症研修（1/24）
- 年末年始における診療・検査医療機関の休日加算の取扱いについて
- 医療機関を標的としたサイバー攻撃（ランサムウェア）への対応について（注意喚起）
- 令和3年度児童虐待対応研修【専門講座第4回】の開催について
- 令和3年度 東京都アレルギー疾患治療専門研修のご案内について
- ヒトパピローマウイルス感染症に係る定期接種の今後の対応について
- オンライン請求システムの利用に必要な電子証明書の切替えについて（お知らせ）
- 令和3年度東京都外国人患者受入れ体制整備支援事業の追加募集の実施について
- 令和3年度医療事故調査制度に係る「管理者・実務者セミナー」の開催について

- 看護職員の離職防止を図るための「医療現場における暴力・ハラスメント対策(動画)」について
- (病院)医療施設等における感染拡大防止に留意した面会の事例について
- 新型コロナウイルスワクチンの時間外・休日の接種及び個別接種促進のための支援事業の請求等について
- (産婦人科)出産育児一時金請求用ソフトの更新について
- 新型コロナウイルス感染症の検査に係る保険収載価格の見直し(案)について(情報提供)
- 感染の急拡大を踏まえた検査体制の確保について
- 新型コロナウイルス感染症に関する東京都検査体制整備計画の改定について
- 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)診療の手引き別冊の周知について

医 師 会 の 動 き

令和3年12月20日現在

医療機関数	193	病 院	28
		医 院・診 療 所	165
会 員 数	519	正 会 員	208
		準 会 員	311

会 議

11月9日	定例理事会
16日	学校医部会
18日	第3回西多摩地域糖尿病医療連携 検討会
30日	定例理事会
12月14日	第3回西多摩地域脳卒中医療連携 検討会
14日	定例理事会
20日	広報部会(会報編集)
24日	学術部会

講演会・その他

11月9日	保険整備会
11日	学術Web講演会 《講演》 演題:「高齢者の全身を診る ーフレイルと低亜鉛血症ー」 演者:順天堂東京江東高齢者医 療センター 消化器内科 科長・先任准教授 浅岡 大介 先生
16日	学術Web講演会 西多摩てんか ん診療連携Webセミナー 《講演》 演題:「高齢者てんかん」

演者:青梅市立総合病院 精神科
部長 岡崎 光俊 先生

《特別講演》

演題:「小児のけいれん・ひきつけ」

演者:日本橋神経クリニック

院長 久保田 英幹 先生

17日 学術Web講演会 第19回西多

摩高血圧カンファレンス

《オープニングリマークス》

演題:「死体検案から見た血圧管
理の重要性」

演者:野本医院

院長 野本 正嗣 先生

《特別講演》

演題:「Withコロナ時代の効果を
実感できる高血圧治療」

演者:東京女子医科大学 高血圧・
内分泌内科 教授・基幹分
野長 市原 淳弘 先生

18日 法律相談

19日 学術Web講演会 地域で心不全
治療を考える会

《講演》

演題:「心不全診療の変遷とNew
Normal」

演者:潮友会うしお病院 循環器
内科 部長 加藤 真帆人
先生

24日 学術Web講演会 高齢者心房細
動を考える会

《講演》

演題:「超高齢・高出血リスク心

- 房細動に対する薬物療法
～ELDERCARE-AF試験～
演者：青梅市立総合病院 循環器
内科 部長 小野 裕一 先生
- 25日 第16回青梅CKD勉強会
《講演》
演題：「青梅市における糖尿病重
症化予防への取組」
演者：青梅市 健康福祉部 健康課
特定健診係 係長
塩野 千春 先生
《講演》
演題：「CKDの治療の新たな展開
～尿管再吸収の見直しと
いう視点から～」
演者：公立阿伎留医療センター
腎臓内科 部長 梅津 道夫
先生
- 30日 にしたまネット講演会 ～にした
まICT医療ネットワークシステム
について～
- 12月7日 学術Web講演会 第29回西多摩
呼吸器懇話会
《症例検討》
演題：「胸部X線写真読影・解説」
《特別講演》
演題：「COVID-19⇔FLU；シン
プルに考えるマネジメント」
演者：東京医科大学八王子医療
センター 感染症科 教授
平井 由児 先生
- 8日 学術Web講演会 第36回西多摩
心臓病研究会
《特別講演》
演題：「心不全の悪化、再入院を
防ぐ、新たな薬剤選択」
演者：順天堂大学大学院医学研究
科 循環器内科学・心血管
睡眠呼吸医学講座
准教授 葛西 隆敏 先生
- 9日 保険整備会
- 9日 第1回在宅医療講座（Web）
「西多摩地域 コロナ禍における
在宅医療連携」
- ①医師会の対応 西多摩医師会
進藤幸雄 先生
医師会と保健所と連携して行っ
た対応。自宅療養者支援について
- ②COVID-19について 青梅市
立総合病院 院長 大友建一郎
先生
第5波で起きたこと、第6波に
備えての課題など
- ③COVID-19感染拡大時の診療
東青梅診療所 院長 武信康弘
先生
発熱外来診療の経験、陽性者往
診の経験など
- ④COVID-19感染拡大時の訪問
看護
訪問看護ステーションあん
所長 窪田和代 様
感染拡大時の訪問看護、第6波
への課題など
- ⑤COVID-19感染拡大時の訪問
薬剤 みどり薬局千ヶ瀬 小山内
智紀 様
自宅療養者への訪問薬剤、今後
の課題など
- ⑥西多摩地域のCOVID-19感染
拡大 西多摩保健所 所長 播磨
あかね先生
西多摩地域で起きたこと、第6
波に備えるべき課題など
- 15日 糖尿病医療連携検討会（Web）
第1回「糖尿病合併症を理解する
ための勉強会」
演題：「糖尿病合併症としての循
環器疾患」
演者：青梅市立総合病院
野本 英嗣 先生

役員出張

- 11月5日 東京都地域医療構想会議座長副座
長勉強会
- 12日 第2回東京都地域医療構想会議
- 15日 西多摩保健医療圏地域災害医療連
携会議（福生ブロック）

- 20日 福生市学校保健会講演会
 25日 東京都地域医療構想会議「在宅
 ワーキンググループ」座長連絡会
 26日 第12回地区医師会感染症担当理
 事連絡会
 12月7日 東京都地域医療構想会議「在宅
 ワーキンググループ」
 17日 地区医師会長連絡協議会
 21日 西多摩新型インフルエンザ等感染
 症地域医療体制ブロック協議会医
 療機関部会
 24日 第13回地区医師会感染症担当理
 事連絡会

【新規開業】

氏名 高安 英樹
 施設名 (医社) 向日葵清心会
 ひまわり在宅クリニック
 所在地 青梅市河辺町4-8-7

【入会会員】(正会員)

氏名 高安 英樹
 勤務先 (医社) 向日葵清心会
 ひまわり在宅クリニック
 出身校大学 東京慈恵会医科大学
 昭和58年3月卒

氏名 眞鍋 歩 (準会員→正会員)
 勤務先 (医社) 真愛会 真鍋クリニック
 出身校大学 日本大学 平成21年3月卒

【退会会員】(準会員)

氏名 坪川 民治
 勤務先 (医社) 和風会
 多摩リハビリテーション病院

氏名 森岡 聖次
 勤務先 (医社) 向日葵清心会
 いずみクリニック

氏名 清水 章三郎
 勤務先 あきるの内科クリニック

【施設・会員種別変更】

氏名 高安 英樹
 (新) (医社) 向日葵清心会 (正会員)
 ひまわり在宅クリニック
 (旧) (医社) 向日葵清心会 (準会員)
 いずみクリニック

【廃業・会員種別変更】

正会員→準会員
 氏名 萩森 正紀
 施設名 大門診療所

【法人代表者変更】

(医社) 真愛会 真鍋クリニック
 (医社) 真愛会 真愛眼科医院
 (医社) 真愛会 双葉クリニック
 (医社) 真愛会 あかしの里
 (新) 理事長 眞鍋 歩
 (旧) 理事長 眞鍋 勉

【法人化・名称開設者変更】

新 (医社) 深望会 あきるの杜
 きずなクリニック
 理事長 小高 哲郎
 旧 あきるの杜きずなクリニック 小高 哲郎

【氏名変更】

新 笹村 瑛子
 旧 武市 瑛子
 勤務先 (医社) 仁成会 高木病院

表紙のこぼ



『初詣』

近所の神社の初詣風景です。コロナ禍の昨年は、閑散としたものでした。今年こそは、コロナが収束していき、このような賑わいが戻って欲しいものです。今年こそは、良い年に、これまでの普通が普通に感じられるような年になることを願っております。

永仁醫院 古川朋靖

お知らせ

事務局より お知らせ

保険請求書類提出締切日

令和4年2月（1月診療分） **2月8日（火）** 正午迄
 令和4年3月（2月診療分） **3月8日（火）** 正午迄
 （締切日以前の提出も可能です）

法律相談

西多摩医師会顧問弁護士 堀 克己先生による法律相談を
 毎月**第3木曜日**午後2時より実施いたします。
 お気軽にご相談ください。

◎相談日 **2月17日（木）**
3月17日（木）

◎場所 西多摩医師会館
 ◎内容 医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・
 刑事に関するどのようなものでも結構です。

◎相談料 無料（但し相談を超える場合は別途）
 ◎申込方法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。
 （注）先生の都合で相談日を変更することもあります。

あ と が き

2021年「も」COVID-19に振り回された1年
 でした。もう2年も経っているのに先がなかな
 かな見えない、少し見えたと思ったらまた見
 えなくなってしまう、光明の見えない日々が
 続きました。

ただ、感染症の歴史を紐解くと、100年前に
 世界中で猛威を振るったスペイン風邪も終息
 までに3年かかっています。医療技術も人流も
 当時とは全く異なる今と比較するのは酷かも
 しれませんが、1億人を超えるとされる犠牲
 者を出したスペイン風邪より早く終息するの
 というのは甘い見立てなのかもしれません。
 2022年もCOVID-19に振り回される年にな
 りそうですが、その中でも上手に生きていく

という術も必要になると思います。スペイン
 風邪の時にマスクの着用が初めて一般人に広
 まったと言われているように、COVID-19に
 なってソーシャルディスタンスの概念、手指
 消毒の概念が一般人にも広まってきました。
 密な環境など既存の概念が淘汰され、新しい
 概念が広がることは社会という生物の変異と
 も取ることができると思います。ウイルスが
 変異するのであればそれに合わせて社会も変
 異する、これがこれから生きるために必要な
 ことかもしれません。

次のあとがきに「も」と書かないで済むよう
 な1年になればいいと思います。

馬場一徳

一般社団法人 西多摩医師会

令和4年1月1日発行

会長 玉木一弘 〒198-0042 東京都青梅市東青梅1-167-12 TEL 0428 (23) 2171・FAX 0428 (24) 1615

会報編集委員会 古川 朋靖

下村 智 土田 大介 鹿兒島武志 進藤 幸雄 奥村 充
 近藤 之暢 菊池 孝 三ツ汐 洋 馬場 一徳 小高 哲郎

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428 (22) 3047・FAX 0428 (22) 9993

生命の輝きをみつめ

“いつの時代も、地域医療とともに”

ひとりひとりの健康で豊かな社会生活を掲げ
地域に根ざした検査所として歩んできました。
高度な技術と最新の設備で地域医療の
さまざまなニーズに対応しています。



登録衛生検査所

株式会社 武蔵臨床検査所

〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢 309-8

TEL ; 04-2964-2621 FAX ; 04-2964-6659

URL ; <http://www.e-musashi.co.jp>

多摩地域で事業を営む皆さまに

提携事業所※従業員様向け

専用ローンがごございます

※たましん従業員サポート制度「Life&Work」にご契約されている事業所が対象です。

- マイカーや教育等、
ライフイベントに関する
資金使途に対応
- WEBによる事前審査も可能

RISURU
©'21 SANRIO APPR.
NO. L615511



多摩信用金庫

詳しくはお近くのたましんへ

<https://www.tamashin.jp>



福利厚生
の
充実に